

監 査 報 告 書

平成 29 年 8 月 23 日

大学評価コンソーシアム

代表幹事 小 湊 卓 夫 殿

監査人

浅 野 昭 人

印

大 川 一 毅

印

私ども、監査人は、大学評価コンソーシアム（以下、コンソーシアム）の平成 28 事業年度（平成 28 年 8 月 27 日から平成 29 年 8 月 25 日まで）の業務について監査を実施しました。

その結果につき、次のとおり報告します。

1. 監査方法の概要

私ども、監査人は、幹事の業務執行の状況に関する監査（業務監査）に当たっては、幹事が行う諸活動に関する情報提供を受け、必要と認める場合には質問を行いました。

2. 監査の結果

コンソーシアムの活動については、会則および第 1 期活動方針、運営に関する指針にもとづき、適正に執行されていると認めます。

以上

別添

1. 組織の目的と活動内容

大学評価コンソーシアム（以下、コンソーシアム）は、組織の目的として以下3点を掲げている。

- 1) 評価を通して、大学の教育、研究、諸活動の充実につなげるための支援を行う。
- 2) 実践を基本として、役に立つ知識・スキルの共有や、事例の分析を行う。
- 3) 評価に携わるすべての人（大学、評価機関、政府等）に役に立つ活動とする。

コンソーシアムは、上記目的に基づき、平成24事業年度（大学評価担当者集会2012の終了直後）から5年間（大学評価・IR担当者集会2017の終了時まで）の行動計画として、以下2つを掲げている。

行動計画1：大学評価に携わるすべての人が「評価」という取り組みを通して、大学の改善を図っていくための理解を深めるための支援を行う。

行動計画2：評価人材の能力・スキルを明らかにし、評価人材が大学の改善のために効果的な支援が行えるような具体的なテーマを設定し、目的を明確にした評価人材の育成、資質の向上を図る。

これらの行動計画をもとに平成28年8月27日から平成29年8月25日までの活動結果は以下の通りであることが報告された。

(1) 催し物の部

平成28年10月21日（金）

平成28年度：第2回 IR実務担当者連絡会（於：鳥取大学鳥取キャンパス）

[報告数：4件 参加者：31名 満足度：100.0%]

平成28年11月29日（火）

IR初級人材育成研修会（初級・収集編）（於：キャンパス・イノベーションセンター東京）

[参加者：15名 満足度：100.0%]

平成28年11月29日（火）

IR初級人材育成研修会（入門編）（於：キャンパス・イノベーションセンター東京）

[参加者：25名 満足度：100.0%]

平成28年12月13日（火）

平成28年度：第3回 IR実務担当者連絡会（於：新潟大学駅南キャンパス）

[報告数：4件 参加者：25名 満足度：100.0%]

平成29年1月19日（木）

継続的改善のためのIR/IEセミナー2017a セッション1：指標の運用と活用（於：明治大学駿河台

キャンパス)

[参加者：78名 満足度：98.1%]

平成29年1月20日(金)

継続的改善のためのIR/IEセミナー2017a セッション2：教育の質保証システム（於：明治大学駿河台キャンパス）

[参加者：72名 満足度：97.8%]

平成29年1月20日(金)

継続的改善のためのIR/IEセミナー2017a セッション3：立上げ期にあるIRオフィスの課題（於：明治大学駿河台キャンパス）

[参加者：69名 満足度：100.0%]

平成29年2月27日(月)

平成28年度：第4回IR実務担当者連絡会（於：佐賀大学本庄キャンパス）

[報告数：5件 参加者：49名 満足度：100.0%]

平成29年2月28日(火)

IR初級人材育成研修会（初級・設計/分析編）（於：JR博多シティ）

[参加者：33名 満足度：集計中]

平成29年2月28日(火)

IR初級人材育成研修会（入門編）（於：JR博多シティ）

[参加者：24名 満足度：100.0%]

平成29年5月19日(金)

平成29年度：第1回IR実務担当者連絡会（於：立命館大学大阪いばらきキャンパス）

[報告数：5件 参加者：41名 満足度：96.4%]

平成29年7月14日(金)

平成29年度：第2回IR実務担当者連絡会（於：帯広畜産大学）

[報告数：4件 参加者：26名 満足度：86.7%]

平成29年7月19日(木)

継続的改善のためのIR/IEセミナー2017b セッション1：IR人材の在り方について考える（於：九州大学伊都キャンパス）

[参加者：40名 満足度：集計中]

平成 29 年 7 月 20 日（金）

継続的改善のための IR/IE セミナー 2017b セッション 2：質保証とカリキュラム・マネジメント
（於：九州大学伊都キャンパス）

[参加者：44 名 満足度：集計中]

平成 29 年 8 月 23 日（水）・24 日（木）・25 日（金）

大学評価・IR 担当者集会 2017（於：立命館大学大阪いばらきキャンパス）

[参加者：150 名予定]

※満足度は 5 段階で肯定的な 2 つの段階に回答した者の割合である。

（2）出版物の部

情報誌「大学評価と IR」（平成 27 年 2 月発刊）

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=lib>

評価と IR に関する実践事例などを年 4 回発行予定するもので、平成 28 事業年度は以下の 2 号を発行し、5 編の事例報告などが掲載された。

また平成 28 年 8 月には投稿（原稿）区分と査読プロセスを改正し、新たな投稿（原稿）区分、編集フロー、査読用ルーブリックの運用を進めた。

第 7 号 [平成 28 年（2016 年）12 月 29 日]

第 8 号 [平成 29 年（2017 年）8 月 10 日]

（3）5 年間の自己点検評価と今後 5 年の行動計画

代表幹事による自己点検評価

- 行動計画 1 については、評価のみならずそれと深く関係する IR も取り上げ、大学評価・IR 担当者集会に加え、各種勉強会や研修会を 10 回近く開催することにより、改善支援への理解の深化と、具体的な方法の蓄積・共有を継続的に図ってきた。
- 行動計画 2 については、一昨年度作成した評価・IR 担当者の能力段階表に基づいて研修プログラムを実施した。
- 加えて、会員によるこれまでの活動経験や知見を共有することを目的とした情報誌『大学評価と IR』の発刊と、先に述べた勉強会等を行うことにより、人材育成に寄与していると考えている。
- 今後は、大学評価・IR の担当者のニーズを踏まえながら各種勉強会や研修会、「IR 初級人材育成プログラム」等の展開を積極的に図っていくことが必要となる。
- それと同時に、評価と IR は活動が重複する部分と独自領域とに分けられることを踏まえ、個々の独自領域に関する活動を体系的に行っていくことも必要と考える。

評価結果を受けた行動計画案

<基本的な考え方>

- 1) 大学評価や IR などの活動を通して、大学の教育、研究、諸活動の充実につなげるための支援を行う。

- 2) 実践を基本として、役に立つ知識・スキルや事例の蓄積を勉強会や情報誌を通して共有する。
- 3) 大学評価や IR などに携わるすべての人（大学、評価機関、政府等）に役に立つ活動とする。

行動計画 1

本コンソーシアム会員に対して、大学評価・IR 業務の効果的な推進、並びにこれらの業務を通じて大学の改善を図るために必要とされる知識・技能の向上に資する支援を行うとともに、会員が相互研鑽を図れる場を提供する。

行動計画 2

評価人材や IR 人材に必要な能力・スキルを更に明確化し、それらの能力・スキルを会員がより効果的に獲得できるよう内部質保証、FD、SD、研究マネジメント、データ処理・データ分析などに関連する人材育成を行う団体との連携を図る。

註：基本的な考え方は IR という文言を付け加えただけで変更していない。

2. 監査人の所見

- ・評価人材の育成・資質の向上を目的とした連絡会や勉強会等を 9 回開催（共催を含む）しており、大規模な大学評価担当者集会を除けば、会員を含む 548 名が参加した。大学評価に関する催し物だけでなく、IR に関する勉強会も開催している。アンケート結果（平均満足度：98%以上）から推察するに、会員のニーズに応える時宜を得たものであったと考えられる。また、本コンソーシアムに関わる幹事、会員が、大学評価や IR に関わる各種シンポジウムや講演、研修等に、しばしば登壇している。このことは、評価人材の育成・資質の向上を目的とした本会の成果を如実に反映しているものといえる。
- ・大学等の本務先で、評価・IR 部署を離れても、本コンソーシアムを会員継続し、担当者集会や勉強会に参加継続しているという複数の事例報告を受けている。評価・IR 部署でのスペシャリスト養成への貢献にとどまらず、評価・IR マインドをもった人材を、大学等の各部署に広げていくことも、評価人材の育成事例として喜ぶべき状況と評価する。
- ・最も大きな活動企画である大学評価・IR 担当者集会の開催にあたっては、幹事会を複数（4 回）開催して議論を重ね、綿密な準備を行っているとの報告を受けている。企画については、会員のニーズを考慮して検討していると思われるが、会員数が 731 名（平成 29 年 8 月現在）ということ踏まえると会員のニーズも多様化しているのではないかと、ということも考慮しなければならないだろう。従って約 730 名の会員という大きなリソースを活用した調査等を実施し、会員の現状と課題の把握を行うことで我が国の大学評価と IR の今を捉えつつ、現場の期待に応える企画を検討することも重要なことではないかと考えられる。
- ・情報誌「大学評価と IR」が、本監査対象期間である平成 28 事業年度において 2 部発行されるなど、評価と IR に関する実践事例研究が継続的に実施されていることは、本コンソーシアムの組織目標である「実践を基本として、役に立つ知識・スキルの共有や、事例の分析を行う」ことに大いに資するものであり、評価できる。
- ・いずれの取組みも、参加費等を徴収せず、全て無償で開催されている。無償による開催は、評価に携わ

る多くの関係者に広く研修の機会を提供するという点において意味を持っているが、組織の持続的・発展的存続を考慮した場合、その運営経費をどのように捻出するのかは、検討すべき課題であるように思われる。

- ・担当者集会をはじめ、連絡会や勉強会、情報誌の発行など、本会の活発な活動と波及効果は高く評価するが、その一方でこれら事業を取りまとめる幹事等スタッフの過剰な業務負担は懸念する。幹事、もしくは運営協力者の増員も検討の余地はあろう。ただし、運営側の人員の検討にあたっては、担当者の責務や権限、組織体制なども慎重に考慮すべきではある。なお、これら企画や実行に関わる幹事等は、すべてボランティアで行われており、本務との兼任や交通経費など、適切に担保することも本会運営の視野に入れなければ、後継者の確保が難しくなりはしまいか。また、次期5年間における組織体制のありかたについて、再確認の意味も込めて検証することも意義があろう。
- ・本コンソーシアムでは、当初、国立大学法人第三期中期目標・計画への対応など、国や評価機関による全国的な動向を見据えた取組みを行ってきた。平成24事業年度から開始した本コンソーシアムの行動計画も一つの区切りを迎え、新たな行動計画をもとに活動を進めるとのことだが、政策動向や情勢への対応に留まらず、より積極的に大学評価やIRのあるべき姿を提起する取組みに発展していくことを期待したい。